

東京大学教養学部

# オルガン演奏会

## 第125回演奏会

2012年6月29日(金) 18時45分

Fri 29 June 6:45 pm at Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン：椎名 雄一郎

Organ: Shiina, Yuichiro

合 唱：ハインリッヒ・シュッツ合唱団・東京

Heinrich Schütz Chor, Tokyo

指 揮：淡野 弓子

Conductor: Tanno, Yumiko

---

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685–1750)

前奏曲 ロ短調 Praeludium in h-Moll BWV 544/1

---

H・シュッツ Heinrich Schütz (1585–1672)

音楽による葬送 第1部～第3部 Musikalische Exequien SWV 279–281

---

J・S・バッハ J. S. Bach

トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調

Toccata, Adagio et Fuga C-Dur BWV 564

いと高きところには神にのみ栄光あれ

Allein Gott in der Höh' sei Ehr' BWV 715

イエスよ、わが喜び Jesu, meine Freude

コ ラ ール：Jesu, meine Freude モテット〈イエスよ、わが喜び〉

BWV 227 より第1曲

ファンタジア：Fantasia über «Jesu meine Freude» BWV 713

コ ラ ール：Weicht, ihr Trauergeister モテット〈イエスよ、わが喜び〉

BWV 227 より第11曲

イエスは変わりなきわが喜び（カンタータ第147番より第10曲）

«Jesus bleibet meine Freude» aus Kantate Nr. 147 BWV 147

M・デュリュフレ編曲 Orgelbearbeitung: Maurice Durufé

---

東京大学教養学部 900 番教室（講堂）

入場無料（先着 500 名）開場 18 時 15 分

主催：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 協賛：駒場友の会

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/> tel 03-5454-6139（美術博物館）

# 演奏者プロフィール

## 第125回演奏会

2012年6月29日(金) 18時45分 (開場18時15分)



撮影：風間久和

### 淡野 弓子 (指揮)

Tanno, Yumiko

東京藝術大学卒業後ドイツ・ヴェストファーレン州立教会音楽院に留学。1968年東京にハインリヒ・シュッツ合唱団を設立。1970年代東大教養学部において開催された“杉山好 J. S. バッハゼミ”を聴講、《ヨハネ受難曲》における修辞学的音型や象徴表現を学び、のちの楽曲解釈の源泉となる。1984年音楽グループ『ムシカ・ポエティカ (音楽詩学)』を組織。1989年より2001年までの12年間＜シュッツ全作品連続演奏＞を行い496曲の演奏を終了。2008年9月常任指揮者を退任するも機会に応じてソロ／指揮／レコーディングおよび執筆活動に従事。師：W.エーマン (指揮)、A.ギーベル、E.マニオン (声楽) 活水学院教会音楽研究所研究員。『ムシカ・ポエティカ』代表。



### 椎名 雄一郎 (オルガン)

Shiina, Yuichiro

東京芸術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。1994年、第1回ザ・シンフォニーホール・オルガンオーディション入賞。1997年、第1回ダラス国際オルガンコンクール第2位。2000年、第12回ライプツィヒ・バッハ国際コンクール第3位。2002年、NDR (北ドイツ放送局) 音楽賞国際オルガンコンクール優勝。日本のほか、スイス・オルガン・フェスティバルをはじめ、ドイツ、オーストリアを中心に欧州各地で演奏会を行う。現在、長崎・活水学院オルガニスト、活水女子大学准教授。東京藝術大学非常勤講師。日本基督教団讃美歌委員会実務委員。日本キリスト教団吉祥寺教会オルガニスト。



撮影：風間久和

### ハインリッヒ・シュッツ合唱団・東京 (合唱)

Heinrich Schütz Chor, Tokyo

1968年4月、ハインリヒ・シュッツ (1585-1672) の作品の研究、演奏を中心課題とする合唱団として東京に発足。淡野弓子、H. J. コルロイター、鈴木仁、淡野太郎らの指導、指揮のもとに公演活動が続け、日本を代表する合唱団の一つとして内外から信頼を寄せられている。1977年東大教養学部900番教室に設置されたパイプオルガン竣工記念演奏会 (同年5月7日) にて、シュッツ、バッハを演奏。1985年旧東独政府より国際ハインリヒ・シュッツ祭に招かれ、ドレスデンのゼンパーオペラ劇場において柴田南雄《宇宙について》を欧州初演。その後もシュッツ祭出演を含む多くのコンサートをドイツ各地で開催、各紙の絶賛を得る。1989年10月より「シュッツ全作品連続演奏」を開始し、2001年10月、500曲に及ぶ全曲の演奏を終了。シュッツ作品のみならず、ルネサンス期のア・カペラ作品から現代曲まで初演を含む多くの作品と共に40数年亘って活発な演奏活動を展開。